

# 環状第4号線環境現況調査に関する説明会

## ○ 概要

### ■ 日時・会場・来場者数

日時	会場	来場者数
8月31日(月) 19:00～20:30	港区立 高輪区民センター	約500人
9月1日(火) 19:00～20:30	アリアル会議室 ANNEX	約180人
9月2日(水) 19:00～20:30	港区立 港南小学校	約140人

### ■ 説明会の様子



8/31 高輪区民センター



9/1 アリアル会議室ANNEX



9/2 港南小学校

### ■ 説明内容

- 環境現況調査について
- 計画のあらましについて
- 今後の進め方について

## ○ 主なご質問やご意見

### ■ 環境現況調査について

Q 調査にあたっては、調査員であることを明示してほしい。

A 調査を委託する専門の調査会社には腕章や証明書を携帯させるなど、東京都から委託された調査員であることを分かるようにします。

### ■ 周辺の影響について

Q 白金台地域には、けやきが多く残っている公園等があり、道路整備によりなくなってしまう。周辺の環境に大きな影響を及ぼすのではないか。

A 他の整備事例ではありますが、樹木を残した事例、また、樹木医の診断を受け、移植した事例や、やむを得ず伐採した事例などがあります。今後、環境現況調査等を行い、詳細について検討していきます。

### ■ 用地補償について

Q 土地が計画線にかかっている。住民にはどのような補償があるのか。

A 「公共事業に伴う損失補償基準」に基づき、生活再建に必要な費用等を補償させていただきます。主な内容としては、建物移転補償・立木補償・営業補償等があります。

今後、都市計画手続を経て事業認可の取得後、用地説明会にて、具体的な補償内容を説明させていただきます。

## ○ 主なご質問やご意見(続き)

### ■ 既定の都市計画の内容について

Q 環状第4号線の道路構造は決まっているのか。

A 既定の都市計画は、平面構造となっています。  
今後、環境現況調査の結果等を踏まえ、変更を含め検討していきます。

### ■ 道路構造について

Q 周辺への影響も考えて、地下トンネルにできないか。

A 地下構造のトンネルとした場合、延長によっては換気塔が必要となり、さらに、トンネルから地上に出る区間は、既定の都市計画幅員(25m)を越える幅員が必要となる可能性があります。

また、交差する桜田通りの地下には、都営地下鉄浅草線やライフラインを収容している共同溝があり、検討にあたっては、こうした構造物等を考慮する必要があります。

今後、具体的な案は、環境現況調査の結果等を踏まえ、検討していきます。

Q 鉄道と交差する区間は、高架構造となるイメージ図が掲載されている。この区間も複数案を検討すべき。

A J R 東海道新幹線の下には、リニア中央新幹線が計画されており、また、品川駅西側の地盤が高いことから、鉄道と交差する区間は高架形式を基本に考えています。

### ■ 今後のスケジュールについて

Q 今後の進め方(スケジュール)を示してほしい。

A 環状第4号線と延伸部については、東京都環境影響評価条例に基づき、複数の道路計画案について環境影響等を比較評価する計画段階環境影響評価と都市計画変更の手続を合わせて進めていきます。

平成27年の秋季から、環境現況調査を約1年行い、その後、環境影響評価等の手続を進め、一般的に、都市計画変更まで約3～4年程度の期間を要します。

開通時期は、2027年(平成39年)に予定されているリニア中央新幹線の開業を一つの目安として考えておりますが、詳細は今後検討していきます。

Q 住民の意見はどのように計画に反映されるのか。

A 今後、複数の道路計画案の策定と合わせ、環境影響評価の結果をお示しするとともに、「説明会」、「意見書の提出」など、節目、節目で地域住民の皆様のご意見を伺いながら、計画を策定していきます。